

# 産経 health

[メタボリックシンドローム・ネット](#)
[メタボリックシンドロームPRO](#)
[小児肥満ネット](#)
[ニッポンの食、がんばれ!](#)

## 産経健康倶楽部

Sankei Health Club

[» 会員専用ページトップ](#)

## 「産経健康倶楽部」会員専用ページ

毎日の生活に役立つ情報をお届けする「産経健康倶楽部」へようこそ！  
このページでは、登録された会員さまだけの注目情報を定期的に掲載します。



### 食がカラダを変える! *Special* 対談

新連載

## vol.01 末期がん患者に気力と活力を吹き込んだ「漢方文化」

### ピンピンコロリをめざして

**黒岩**

父の話に戻りますが、驚いたのは父が元気になるのと並行して、がんも大きくなっていました。そのとき天野先生は食のアドバイスだけでなく、漢方の抗がん剤も処方してくださいました。その結果、大きさ12cmで腫瘍マーカー5200だったがんは、半年後に3cm、腫瘍マーカー20という正常値になったのです。診察した西洋医学の先生からも「お父さんのがんは完治しました」といわれました。

父のことを本にしたとき( )、その薬名を明らかにするかどうか悩みました。事実を伝えたいとは思いましたが、そのことを知ったら読者は単にその薬だけを求めてしまうでしょう。父にはなぜその薬が効いたのか、それは、長芋にはじまるすべての“食”の土台があったからです。胃が力をつけ、気が高まってきた…という積み重ねがあった上で、その薬を使ったから効いたのです。いきなりその薬を使うのはむしろ危険かもしれません。

そもそも漢方の考え方には、陰陽五行の五行説や、体調・体質を示す「証」があります。木、金、火、水、土という5つのタイプがあって、それぞれ全部違うのです。東洋医学のドクターは、まず人間の証を五感で感じながら、タイプを見極めた上で、その人の証に合った処方をしていきます。父の場合も同様、診断してもらった上で処方でしたから、漢方の抗がん剤がそのまますべての人に効くということではないのです。

『末期ガンなのにステーキを食べ、苦しまずに逝った父』(講談社)

**天野**

漢方の世界では3つの薬のレベルがあります。まずは上薬。これは、疲れたときやもっと美しくなりたいときに使います。例えばアンチエイジングに効果のある紅参(こうじん)を飲むときれいになる、というようなものです。次に中薬、病気がよくなる薬です。副作用は少しあるけれど穏やかに治っていくのです。そして最後に下薬、これは大変効果がある反面、副作用もある薬で、訓練された専門家のコントロールがないと使ってはいけないものです。

お父さんの場合、長い時間をかけて体調を整えてきました。腫瘍マーカーが高いのは間違いない、そこで、日本では手に入りにくい抗がん剤を使いました。しかし、家族がそういう薬の存在を知れば早く使いたいという気持ちになるでしょうから、使えるタイミングが来るまで、このことは一切お話ししていなかったのです。体調が整い、気が高まったときに少しだけ使えば、副作用にも耐えられるのです。



幸いにもお父さんは服用後、何の副作用もなく、腫瘍マーカーの数値がスッと下がりましたね。実はお父さんの主治医である西洋医学の先生とは常に連絡を取り合っ、ファクスなどで検査の数値を送ってもらっていたのですが、先生は逆にびっくりしていました。



**黒岩** そうして2年半、父は元気に穏やかに過ごしていましたが、転倒から圧迫骨折となり、自由に身動きできなくなってしまいました。それで気力が喪失してしまったのでしょうか。季節が春に変わる頃の寒い朝、「胃が痛い」と言ったあと、全く苦しまずにスッと息を引き取りました。まさにピンピンコロリです。

**天野** 漢方文化を実践されたお父さんには本当に感謝しています。中医学を行う者にとって、薬で病気が治るのは当たり前のこと。食生活も大事だとわかっているけれど、それをまじめに実践してもらえる機会はなかなかありませんよ。



[🔍 インデックスへ戻る](#)



[📧 お問い合わせ](#) [📄 サイトマップ](#) [📄 プライバシーポリシー](#)

Co